

南ア・フジプレコン 独自製法でCO₂排出抑制

低炭素コンクリ JIS取得

コンクリート製品製造販売のフジプレコン(南アルプス市)が、坂本光春社長は、独自の製法でセメントの配合量を減らし、二酸化炭素(CO₂)の排出量を抑制した「低炭素型コンクリート」で日本産業規格(JIS)を取得した。同社によると、低炭素型コンクリートのJISは首都圏では珍しい。国土交通省が低炭素型コンクリート導入を推進することなどから、坂本社長は「公共事業での採用拡大が期待される。業界内での低炭素型コンクリート普及にも取り組んでいく」と話している。

〈三枝大悟〉



低炭素型コンクリートの製品と坂本光春社長(中央)
＝南アルプス市下今諏訪

国交省導入推進 公共事業で採用拡大期待

同社は、側溝や道路の縁石などのコンクリート製品を製造販売している。1995年ごろからコンクリートの凍結による劣化対策として、高炉スラグを混ぜる手法を採用し、独自に製造方法を確立させた。

高炉スラグは鉄鉱石から鉄を作る際に副産物として生成される。同社は、セメント65%、高炉スラグ35%の配合によるコンクリート製造からスタート。無配合のコンクリートと比べ、強度が3割以上高くなっていることや、経年劣化に強いことなどを確認してきた。セメントの使用量を減らすことでCO₂排出量を削減する効果もあった。

国交省が3月に低炭素型コンクリートの導入を推進する方針を示したため、スラグの配合率を60%に引き上げた。同社の全コンクリート製品を国交省の基準を満たす低炭素型に転換することに成功。JISの申請も行い、9月2日付で取得した。

コンクリート製造に使うボイラーの使用時間を短縮できたため、燃料の消費量も削減。工場としてのCO₂排出量も減らした。坂本社長は「業界内で高炉スラグを配合した低炭素型コンクリートを普及させるため、配合表などの情報を共有していきたい」と話している。